

第38回日本高齢者大会㏌さいたま 東京実行委員会が第3回会議

三一講演 “医療・社会保障 解体政策を跳ね返すために！”

8月26日 都内で日本高齢者
大会東京実行委員会の第3回会
議が開かれ、冒頭に東京民医連
の山根浩さんによるミニ講演が
行われました。

山根さんは「医療・社会保障
解体政策を跳ね返すために、地
域と医療現場の共同を」と、現
場の実態と課題を具体的なデー
タを交えて語りました。

講演では、医療機関の倒産件
数が過去最多となっている現状
に触れ、2025年上半期だけ
で35件にのぼることを報告。
診療報酬のマイナス改定や消費
税負担が経営を圧迫していると
指摘しました。

医療は非課税であるにもかか
わらず、医療機器や材料購入時
には消費税が課され、医療機関

が最終納税者となる構造が問題であると説明。具体的な例をととに経営を圧迫している実態が明らかにされました。

また、「高齢者は医療費を多く使っている」という誤解にはし、実際には1回あたりで74歳以下と比べて1.8倍程度、入院費は8.8倍とむしろ低い水準であることが示されました。医療費の違いは診療・入院頻度によるもので、予防医療や検診の充実で改善可能と述べました。

さらに、「騎馬戦型から肩古型へ」という高齢者人口増加の比喩についても、高齢者の就業率上昇など具体的な予測統計を根拠にその誤りを明らかにしました。

後半では、社会保障抑制政策

また、一部政党による「尊厳死の法制化」や「終末期医療の全額自己負担」「後期高齢者医療費の3割負担」などの提案に対し、「人の不幸に依つて立つ幸福はない」と強く批判。医療は人権であり、誰もが安心して受けられるべきものという基本が一貫して語られました。

最後に、山根さんは地域での学習会開催や、民医連外の医療機関との懇談、労働組合・社保協との連携、国会議員・自治体への要請活動など、具体的な取り組みを提案。「学習会を開いていただければ、どこへでもうかがいます」と語り、地域から声を上げ、制度を変えていく力になつてほしいと呼びかけまし

府は、介護保険制度の根幹を揺るがす「3大改悪」①利用料2割負担の対象拡大、②介護プランの有料化、③要介護1・2の生活援助サービスの保険外しの議論を進め、法案を通常国会にかけようとしています。2025年秋は、極めて重要な闘いの秋になります。

中央社保協・全労連・全日医連は9月1日、「新介護署名総決起WEB集会」を開催し、制度改悪を阻止するための全国署名運動の開始を呼びかけました。署名の目標は5万人、そのうち9月～11月で25万人の署名を集めることをめざします。11月20日には、

国会への提出集会が予定されています。
このWEB集会の様子は、
現在YouTubeでも視聴できます。
介護制度の危機と現場の声
を知るために、ぜひご覧ください。
URLは、<https://x.gd/kaigoshomei>です。
愛知の小松さんによるはじめ
の挨拶で情勢の大要がわかり
ます。全日本医連の林さん
の話では、情勢と新たな署名
のポイントが整理され、この
部分だけでも、小集会などの
学習に使える内容です。youtu
beでは、事業者や・労働者な
どの発言も聞くことができま
す。新署名は、<https://x.gd/>
sinkai goshomei となります。

**介護3大改悪を止めるために
9月1日WEB集会で
新署名運動がスタート**

会議では、日本高齢者大会Ki-26-yamane.pdf）か（ひ）覽（な）だけます。

（次回の東京実行委員会は10月28日（火）14：00から東京労働会館で行われます。地域の取り組みも、覗くください。）

高齢者医療をめぐる課題に対する取り組み、現場と地域が手を携えて取り組む必要性が改めて確認される学習の場となりました。講演資料は東京高齢期運動連絡会のホームページ（<https://kouree>

提案があり、参加した各団体、地域からは、取り組んでいる運動についての発言とともに、高齢者大会参加の取り組みが始まっています。この状況の報告が続きました。

発行
東京高齢期運動連絡会
電話 03 (5956) 8781
FAX03 (5956) 8782
Em:tokyo.koureiki@
gmail.com
発行人：菅谷正美

補聴器補助制度 実現に向けて

「聞こえは生活の必需品」です

東京連ユース

加齢性難聴による中等度難聴者への補聴器購入補助などの支援制度は、23区ではすべての区で実施され、補聴器購入補助の額も改善が進んでいます。東京高連ニュース66号、69号で紹介した葛飾の運動など、各地域の運動は改善を実現する大きな力になっています。

しかし、多摩地域9自治体、島嶼6自治体には、まだ補聴器購入費助成制度がありません。三多摩では、各地で制度をつくることを求める請願などの運動が行われています。

東村山市では、昨年請願が採択されたのに、今年度予算に入りませんでした。しかし6月議会の答弁では、積極的に考えるという方向が示されました。武蔵村山市では、今年の6月議会で三多摩健康友の会武蔵村山支部が提出した陳情は否決されました。質疑では「令和8年度実施に向けて準備を開始する」という答弁がありました。

二 多摩の動きから

東久留米市では、「みんなのきこえを実現する東久留米の会」が、補聴器購入助成の実施を求める署名運動を今年5月から開始、会には、年金者組合東久留米支部、西都保健生活協同組合、新日本婦人の会東久留米支部などが参加して署名を進めています。また、会は、小規模の集まり「聴力簡易チェックと聞こえの懇談会」を東久留米市内各地できめ細かく開き、聴力検査と学習は運動推進の大きな力になっています。

私たちの運動と、きこえの問題に粘り強く取り組んできた都議会野党の奮闘が実って、東京都は昨年度から、加齢性難聴の高齢者に対する支援を目的として「高齢者聞こえのコミュニケーション支援事業」をスタートさせました。

補助金を投入することが効果的と報告している。

【寺前ももこ都議会議員との懇談】 8月29日（金） 都議会都民ファースト控室で

【清水とし子都議会議員との懇談】 8月23日（土） 多摩平交流センターで

【磯崎四郎】 9月から始まる都議会を前に、公共交通の充実を求めるネットワーク日野は、両都議との懇談の場をもち、路線バスの廃止や減便

の中の「その他の事業」として、他の高齢者施策と並列で扱われていました。「高齢者聞こえのコミュニケーション支援事業」がスタートしたことにより、補聴器購入費助成は独立した補助事業に昇格しました。しかし、都から区市町村に出される財政

負担の率は、かかる費用の1/2のままであります。財政力の弱い多摩地域や島嶼では、制度のスタートが遅れ、新たな格差が生じています。都財政の負担率を引き上げるなどの方策を取り、全地域で高いレベルの補聴器購入費助成制度を実現することが課題

公共交通の充実を求めるネットワーク日野 都議選候補者に公共交通充実について質問 当選した両議員と懇談

6月の都議会議員選挙では、「公共交通の充実を求めるネットワーク日野」がお願いした質問に5人の候補者全員から回答が寄せられ、当選した寺前ももこ

が寄せられ、当選した寺前ももこがお願いしました。報告を送ります。

○都民ファースト多摩地域の部会の事務局を担当することになり、公共交通の課題もそこで取り上げていきたい。多摩都市モノレールへの適用を含め、シリバーパスの拡充を検討している。

○こちらの要望についてはしっかりと受け止めいただき、今後も、日野市の各会派の都議、市議との懇談をすすめていきたいとお伝えしたことについて、「ぜひ声をかけてください」とお返事をいただきました。



従来は、都から区市町村への補聴器購入費助成は「高齢社会対策区市町村包括補助事業」

公共交通の充実を求めるネットワーク日野は、両都議との懇談の場をもち、路線バスの廃止や減便

○多摩市町村自治調査会が発表した持続可能な地域公共交通に関する調査研究は、定時定路線バスの活用が重要と述べ、公が必要。

○多摩市町村自治調査会が発表した持続可能な地域公共交通に関する調査研究は、定時定路線バスの活用が重要と述べ、公が必要。

日本高齢者大会inさいたま 参加の取り組み

11月11日(火)・12日(水)
「分断・対立から共感・連帯へ
築こう平和と人の尊厳」をサ

ブスローガンにかかる大宮ソニックスティホールを会場に行われる
「第38回日本高齢者大会inさいたま」に向けて都内各地で参加の取り組みがはじまりました。

年金者組合 各支部で取り組み

金者組合は、各支部に組合員数で東京版チラシと全国版リーフレットを配布、各支部が参加チケット(全額合計分科会・全体会各約1,500枚)をもつて取り組みを始めています。

三鷹支部、東村山支部、墨田支部などは、支部のニュースで「日本高齢者大会」を紹介。八王子支部は、原水禁世界大会・支部活動資金と合わせ日本高齢者大会参加費用のカンパを呼びかけています。

小平支部、清瀬支部では、高齢者大会1日分の参加費を支部に樂譜や呼びかけを送り12財政から補助することを決めました。東京年金者合唱団は、各支部のオープニングの大合

唱への参加を広げる取り組みを始めています。

東村山WEB会場準備

昨年の愛知大会でも、web会場を設けて取り組んだ東村山では、東村山社保協が中心となって実行委員会を作り、現地への参加をすすめるとともに、今年の日本高齢者大会inさいたまに向かってもweb会場を設けてweb参加を広げることをめざしています。

三多摩健康友の会 大型バス3台で

三多摩健康友の会は、11月講座・分科会、12月全体会とともに200人の参加目標を立て、11月と合計800枚のチケットを配布し、参加組織を開始。また、全体会の行われる11月12日には、多摩地域の三多摩健康友の会のエリアから大宮ソニックスティホールにむかう3台の大型バスを各所に配置し、軽食付き1000円でバス参加を募ります。

組織的な 参加の取り組みを

東京実行委員会は、「参加を広げるには各団体、地域が参加チケットを持って、組織的な取り組みをすすめることが不可欠」と呼びかけています。

9月12日現在61の団体、地域実委、個人がのべ(分科会、全体会あわせ)6,495枚のチ

ケットを持つて参加組織を開始しています。
平和と高齢者の人権が危機にさらされています。いま、全国の仲間が各地の運動を持ち寄り、(高齢者大会の詳しい内容・最新の情報などは、東京高齢期運動連絡会のホームページで見られます。<https://x.gd/taikai>

東京から多くの仲間の参加を

地域の力で日本高齢者大会inさいたまを成功させよう!

30年以上続く北区高齢者集会実行委員会のとりくみ

された第33回北区高齢者集会は、「東京高連ニュース66号」で

回北区高齢者集会実行委員会が開催され、東京土建北支部、

事務局 森松伸治)

ケットを持つて参加組織を開始しています。
平和と高齢者の人権が危機にさらされています。いま、全国の仲間が各地の運動を持ち寄り、(高齢者大会の詳しい内容・最新の情報などは、東京高齢期運動連絡会のホームページで見られます。<https://x.gd/taikai>

(菅谷)

東京ほくと医療生協、年金者組合など11団体が参加。

代表に岩山真一さん(建交

労／東京高齢期運動連絡会常任幹事)、実行委員長に山田康子さん(東京ほくと医療生協)が選出されました。(北

区の実行委員会には代表と実行委員長がいます)北区高齢者集会実行委員会は、11月に

行われる「日本高齢者集会inさいた」と来年2月の「北区高齢者集会」の両方の成功に向けた活動。今年は現在まで

に3回の実行委員会が開かれています。年金者組合北支部が30枚、ほくと医療生協が80枚のチケットをあげかり、第

38回日本高齢者大会inさいたまに向けた取り組みが始まっています。

実現し、運動を持ち寄り、また全国の実践に触れ、多くの知恵を持ち帰ることをめざします。